

2024年4月16日

第18回 ORION 会議 議事録

日時：2024年3月24日（日） 15：15～16：30

現地会場：岡山コンベンションセンター／オンライン併用

参加者：《五十音順》

上原 健司先生（岩国医療センター）、斎藤 智彦先生（岡山ろうさい病院）、谷西 秀紀先生（岡山地赤病院）、築地 崇先生（高砂市民病院）、難波 研二先生（岡山済生会総合病院）、平崎 盟人先生（香川県立中央病院）、藤中 和三先生（広島市民病院）、前島 亨一郎先生（川崎医科大学）、松三 絢弥先生（国立がん研究センター中央病院）

森松 博史、清水 一好、松岡 義和、谷 真規子、鈴木 聡、清水 達彦、片山 明、成谷 俊輝、吉田 翼、松岡 勇斗、中村 美香、宮中 桃子、山下 香織、佐倉 考信（文責）

～協議事項～

(1) 「分離肺換気を要する肺切除術における制限酸素療法の効果の検討」の進行状況（鈴木 聡）

【要旨】

手術中の酸素療法に関する単施設 RCT の続報。対象患者は肺腫瘍の肺切除術施に対して全身麻酔下に分離肺換気を必要とする成人患者で、手術中の SpO₂ ターゲットについて、介入（＝制限）群では 90-94%、従来（＝非制限）群では 96%以上を設定し、吸入酸素濃度を調節するものであり、主要評価項目は術後の非手術側の無気肺スコアである。

当初の予定通り進行し、昨年12月に無事に170名の同意を取得、手術中止など5例の逸脱症例があり、最終的に165名に対して介入を行った。術中の FIO₂、SpO₂ 値は治療介入によってうまく分離できており、治療プロトコールは実行可能であったと考える。現在は EDC へのデータ入力中で、その後正式な解析が行われる予定である。

(2) 「小児心臓手術における AKI 溶血との関連」(佐倉 考信)

【要旨】

小児心臓手術における AKI のリスク因子を調べるために溶血との関連を前向き観察研究で検討した。4歳以下の人工心肺 (CPB) を要する小児心臓手術を受ける患者を対象に溶血によって産生する遊離ヘモグロビン (PFH) と AKI との関連を調査した。AKI 発症群で PFH は有意に高かったが、多変量解析の結果独立した予測因子ではなかった。過去の類似文献を検索すると PFH と AKI の関連の結果は様々であり、PFH と AKI の関連を示したものもある。

次の臨床的疑問として溶血への介入によって AKI を予防することができるかが挙げられる。成人の後向き観察研究でハプトグロビンを投与した群で AKI の発症率が低かったという報告がある。

またハプトグロビンの投与戦略に関しては、肉眼的溶血尿、PFHの測定結果を比較したものがある。PFHの測定結果を指標にした方がAKIを予防できるとの結果が報告されている。次の研究に進むためには、対象患者、研究デザイン、資金などの課題がある。

(3)「全身麻酔中の呼気終末二酸化炭素分圧と術後せん妄発生率の関係 単施設後ろ向き観察研究」 (成谷 俊輝)

【要旨】

当院において2018年6月1日から2021年12月31日の期間内において18歳以上の全身麻酔症例で、術後ICUに入室した患者（脳神経外科、体外循環使用症例を除外）において、全身麻酔中のHypocapniaの発生とPOD5までの術後せん妄（CAM-ICU陽性）発生率の関係を調べた。全身麻酔中にETCO₂<35mmHgとなる曲線上面積（AOC-ETCO₂<35）をHypocapniaの指標とした。2695名がデータ解析対象となり9.6%がCAM-ICU陽性であった。単変量解析ではせん妄発生群でAOC-ETCO₂<35は有意に大きく、AOC-ETCO₂<35大きくなるほどせん妄発生率が高い結果であった。多変量解析の結果では、年齢やASA-PS、手術時間、手術部位分類等の因子で調整した結果、AOC-ETCO₂<35はせん妄発生の独立したリスク因子の一つであった。

■アナウンス

森松)・制限酸素の研究は特に問題となるSAEなく遂行でき解析を待っている状態。

- ・ハプトグロビンの研究については他の施設に何か協力をお願いすることがあるかもしれない。
- ・CO₂とせん妄の研究に関しては新谷先生からのコメントが多く。せん妄free daysをアウトカムとしてはどうかとご提案をいただいた。緊急手術で多い代謝性アシドーシスでCO₂を飛ばして代償している患者や分離肺換気を要する症例は多変量解析で調整している。
- ・次回開催は2024年秋の予定

以上